

それぞれの場所や 集う人々の特性を活かした プロジェクト

今年度は、TURN LAND 5件とプレLAND 6件を含む計11件のプロジェクトが実施に向けて始動しました。就労継続支援B型事業所や放課後デイサービス、地域包括支援センター、こども食堂に取り組む団体など、組織の規模や形態は様々で、どのプロジェクトにもそれぞれの現場の抱える課題に対して前向きに楽しもうとする創造的な姿勢がみられます。

プロジェクトに参加するメンバーは、アートプロジェクトに初めて関わる人も多く、初年度の今年度は手探りで進むプロジェクトもありますが、アーティストと初めて話す福祉職員の戸惑いや、福祉施設に初めて足を踏み入れたアーティストの新鮮な驚きなど、様々な角度から新しい視野の獲得に向けて開かれた心のざわめきが、プロジェクトの栄養となって着実に豊かな物語の序章を紡いでいます。ここではそんな志溢れる参加施設及び団体とそのプロジェクトに参加する協力者たちを記し、11件のプログラムについて紹介します。

case 01 ハーモニー

ハーモニーは、世田谷区にある就労継続支援B型事業所で、主にこころの病のある人達が集う場です。「幻聴妄想かるた」などで人気のある施設で、その魅力を生み出す状況から多くを学ぼうと普段から様々な人が出入りしています。そんなハーモニーメンバー（利用者）の友達の輪をさらに少しずつ広げるようにしてプロジェクトメンバーを増やし、様々なプログラムを展開しています。

【始動時期】2022年9月

【カテゴリー】TURN LAND

【プロジェクトメンバー】 テンギョー・クラ（アーティスト／ヴァガボンド）、ライラ・カセム（デザイナー）、梶谷真司（東京大学教授）、加藤未礼（コーディネーター） ほか

【主宰】ハーモニー

<https://harmony.exblog.jp/>

【参加施設・協力団体】 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター（UTCP）

【プログラム内容】 ハーモニーメンバーがお悩み相談に答えるトーク映像のオンライン配信や、テンギョー・クラに珈琲の淹れ方を教えて誰かに珈琲を淹れる日「珈琲どう?」の開催。またトーク映像をメンバーと振り返りながら、梶谷真司と「哲学対話」を展開し、ライラ・カセムとコラボジュをつくる会を実施。



珈琲を淹れ終えたアーティストとハーモニーメンバー



「珈琲どう?」のキービジュアルを作るアートワークショップ

case 02 ほうらい

台東区にあるほうらい地域包括支援センターは、地域の高齢者がいきいきと安心した生活を続けられるよう、社会福祉士・ケアマネジャー・保健師が相談や支援に応じる総合相談窓口です。ほうらいのスタッフと認知症の方やその家族、アーティストが協働しながら展開するアートプログラムを実施します。

【始動時期】2022年9月

【カテゴリー】プレLAND

【プロジェクトメンバー】 きむらとしろうじんじん（アーティスト）、大西健太郎（ダンサー／パフォーマンス アーティスト）、島田明日香（クラリネット奏者）、BARBARA DARLING（アーティスト）、風間勇助（研究者）、蓮溪芳仁（建築家）、金田翔（アーティスト） ほか

【主宰】ほうらい地域包括支援センター

<http://care-net.biz/13/seihoukai-hourai/rs01.php>

【参加施設・協力団体】 障がい者施設浅草みらいど、東京藝術大学熊倉純子研究室

【プログラム内容】 認知症サポーター養成講座を経てオレンジリングを獲得したアーティストやスタッフが協働し、認知症の方やその家族がのびのびと参加できる屋外アートプログラム「オレンジ・ポコペン」を開催。共に場を創る経験を経て、さらに今後の展開の可能性をアーティストとともに探るため地域リサーチを兼ねた「お散歩会」などを実施。



アートを介して地域の人々との対話の場を開く



曲をリクエストしてアーティストと語り合う

case 03

はあとびあ原宿

はあとびあ原宿は、施設入所支援、生活介護（通所）、短期入所、日中一時支援、児童発達支援などの支援を提供する渋谷区の中核となる障害児者支援施設です。アーティストと利用者、職員とが互いに表現を介して対話を重ねながら、屋上にある菜園を拠点としたアートプロジェクト「原宿荒野」を展開します。

【始動時期】2022年10月

【カテゴリー】TURN LAND

【プロジェクトメンバー】永岡大輔（アーティスト）、岩中可南子（コーディネーター）、藤井理花（コーディネーター）ほか

【主宰】渋谷区障害者福祉センターはあとびあ原宿

<https://doen.jp/introduction/handicap/sakuranbo>

【プログラム内容】定期的にアーティストがはあとびあ原宿に通い、利用者と創作活動をしたり、拠点となる屋上の小屋づくりの作業をしたりする。雑草のお茶会や、枯葉に手紙を描く活動などを通じて職員や利用者たちとの交流を深めています。



「雑草」をキーワードにアーティストと多様な社会について考える



枯葉に手紙をかってプレゼントするアートワークショップ

case 04

さくらんぼ

さくらんぼは、豊島区在住の心身障害者の方が保護者の死亡・高齢化・疾病などの理由で、就労または福祉作業所等への通所が困難となった場合に、住み慣れた地域で生活ができるよう、自立助長のための日常生活の援護、支援を行う施設です。ドラァグクィーンのマダム ボンジュール・ジャンジがさくらんぼの職員たちとアート・プログラムを共創します。

【始動時期】2022年10月

【カテゴリー】プレLAND

【プロジェクトメンバー】マダム ボンジュール・ジャンジ（アーティスト）、岩中可南子（コーディネーター）、横田紗世（コーディネーター）ほか

【主宰】心身障害者福祉ホームさくらんぼ

<https://doen.jp/introduction/handicap/sakuranbo>

【プログラム内容】性の多様性に関するレクチャーと「ハグたいそう」と絵本の読み聞かせの実施、施設利用者のOB/OGとの交流会企画の実施など。

※「ハグたいそう」とは マダム ボンジュール・ジャンジ考案のいつでも身一つでどなたでも参加できる、ひとりひとりの存在を肯定し合う身体ワークショップです。



「ハグたいそう」を通じて多様性への理解を深める

case 05

だんだん

だんだんは、八百屋として立ち上げましたが現在は、こども食堂、読み聞かせ、学生向けのお金の勉強会、ぽわ〜んとcafe(ジェンダーウェルカム)、産前産後保健室(初めてのお灸)、男子の料理教室、「せっちゃんcafe」など様々なイベントを開催し、みんなの居場所と出番を作り出す、大田区にある民間型の文化センターです。近隣の障害者福祉施設である「池上福祉園」やアルコール依存症の自立支援を行う「ステップ夢」とが三つ巴となり、コーディネートチームを新たに結成して取り組みます。

【始動時期】2022年10月

【カテゴリー】TURN LAND

【プロジェクトメンバー】青木亨平(美術家)、藤田龍平(図画工作)、柳楽晃太郎(表現したい奴)、竹丸草子(コーディネーター) ほか

【主宰】気まぐれ八百屋だんだん

<https://www.tomoshiatdandan.com/>

【参加施設・協力団体】大田区立池上福祉園、ステップ夢

【プログラム内容】アーティストが、「池上福祉園」や「ステップ夢」を訪問し利用者や職員たちと交流しながら、アートコミュニケーションツールを開発します。



利用者と語り合うアーティストたち

case 06

くるみの木・みかんの木/フェイト

くるみの木・みかんの木、フェイトは、杉並区にある放課後デイサービスです。それぞれの施設では、発達について支援が必要な子供を対象に、学習支援や居場所づくりなどのサービスを提供しています。アーティストを招いて音楽ワークショップをしたり、地域コーディネーターたちとの交流をしたりしながら、放課後デイサービスの特性を活かしたアートプログラムについて考えます。

【始動時期】2022年10月

【カテゴリー】プレLAND

【プロジェクトメンバー】パポとユミ(アーティストユニット)、大黒健嗣(地域コーディネーター/アーティスト)、岩中可南子(コーディネーター)、横田紗世(コーディネーター) ほか

【主宰】放課後等デイサービス くるみの木・みかんの木、放課後デイサービス フェイト

<http://kuruminokai.jp/><http://fate201210.php.xdomain.jp>

【プログラム内容】パポとユミによる音楽サルサワークショップの開催など。

case 07

ももの会

ももの会は“人と人とを繋ぎながら地域に根ざした福祉のまちづくり”を目指して、高齢者在宅サービスセンター「西荻ふれあいの家」を運営しています。アーティストと職員が意見交換をしながら高齢者にも参加しやすいアートワークショップをアレンジし、利用者と職員とともに作品の創作や発表の場を作ります。

【始動時期】2022年11月

【カテゴリー】プレLAND

【プロジェクトメンバー】DokiKim(アーティスト)、岩中可南子(コーディネーター) ほか

【主宰】認定特定非営利活動法人ももの会

<https://sugimomo.jimdo.com/>

【プログラム内容】高齢者に対応した参加型のアート作品「時間の書」を、オンラインとオフラインのハイブリッドにより、アーティストが利用者や職員と交流する中で作るプログラム。



アート作品「時間の書」を介してアーティストと利用者が交流する

case 08	La Mano	
---------	---------	--

La Manoは、町田市の住宅街の里山のような森の中にあり、障害のある人とない人が共にモノづくりを行っている場所です。藍や草木で糸を染めたり、染めた糸を使っての織り、刺しゅうなどのクラフト製品の制作や、小さなアトリエで個々の豊かな表現活動を行っています。様々な分野のアーティストを施設に招き、職員のコーディネーターとしての人材育成も兼ねたアートプロジェクトを実施します。

【始動時期】2022年11月

【カテゴリー】TURN LAND

【プロジェクトメンバー】水内貴英（美術家）、
飯塚純（美術家）、ナカガワエリ（即興音楽家）、
竹丸草子（コーディネーター） ほか

【主宰】クラフト工房 La Mano（ラmano）

<https://www.koubou-lamano.com/>

【プログラム内容】美術家・音楽家・写真家によるワークショップの実施など。



アーティストが施設見学する様子

case 09	小茂根福祉園	
---------	--------	--

小茂根福祉園は、東京都板橋区にある知的に障害のある人々の通所施設です。生活介護サービスと就労継続支援B型サービスがあり、一人ひとりが「私らしく」住み慣れた地域での生活を実現できるように、日々支援しています。アートプログラムに複数人で対応できるようにするなど、アーティストと協働してきたこれまでの経験を活かして持続可能な体制が取れるよう工夫しています。これまでには施設内で行うプログラムが中心でしたが、これからはアートプログラムを携えて地域へ飛び出し、アートを介して地域と利用者の新たな関係を作ることを目指します。

【始動時期】2022年11月

【カテゴリー】TURN LAND

【プロジェクトメンバー】大西健太郎（ダンサー／パフォーマンスアーティスト）、
笹萌恵（コーディネーター） ほか

【主宰】板橋区立 小茂根福祉園

<https://www.komone-f.net>

【プログラム内容】施設を飛び出し地域でアートプログラムを実践するための運営体制作りと、利用者とアーティストが協働する「風の通り道」に注目した場所作りワークショップの実施など。

case 10	ロート	
---------	-----	--

ロートこどもみらい財団は、現在の教育制度の下で力を発揮しづらいこどもたちのためにコミュニティづくりやアイデア実現に向けた助成金、メンタリングを支援するほか、実践的な学びによってあらゆる領域の専門家や技術に触れ、自身のスキルやアイデアを磨けるようなプログラムの提供を行っています。財団職員の方と相談しながら、アーティストとこどもたちがアートプログラムを通じて出会う場づくりを目指します。

【カテゴリー】 プレLAND

【プロジェクトメンバー】 檜皮一彦（アーティスト）、
宮内芽依（コーディネーター） ほか

【主宰】 ロートこどもみらい財団

<https://future-for-children.rohto.co.jp/>

【プログラム内容】 事前に創作の材料が入ったキットを郵送し、オンラインのワークショップを実施する。その後、対面とオンラインのハイブリッドで、ワークショッププログラムを実施。

case 11	チュプキ	
---------	------	--

CINEMA Chupki TABATA（シネマ チュプキ タバタ）は、目の不自由な人、耳の不自由な人、車いすの人、子育て中の人をはじめ、広く一般の人々に開くユニバーサルシアターです。チュプキ代表の平塚さんをはじめとして鑑賞対話ファシリテーターの舟之川聖子さん、視覚障害者の石井健介さんの三者がコーディネーターチームとしてユニバーサルシアターの社会的役割や可能性を探っていきます。

【始動時期】 2022年12月

【カテゴリー】 プレLAND

【プロジェクトメンバー】 石井健介（ブラインドコミュニケーター）、
舟之川聖子（コーディネーター） ほか

【主宰】 CINEMA Chupki TABATA（シネマ・チュプキ・タバタ）

<https://chupki.jp.org/>

【プログラム内容】 ユニバーサルシアターのチュプキならではの社会的役割や可能性を探るべく、今年度はその構想を始めるためのキックオフ会を実施する。これまでチュプキと縁のある方々と語らう場を開き、映像作品の音声ガイド等アクセシビリティに関する事例紹介や意見交換を行う。



音声ガイドの手話逐次通訳を体験

Photo: Ayaka Umeda